

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 092

(2025/26年度 USDA米国農務省 3月10日発表)

先月まで至って平穏だった世界の穀物マーケットは、寒波による小麦の作柄懸念や中国による米国産大豆の追加購入期待等から全体的に市場価格が上昇したが、まだ小康状態と言える。従って、今月も世界のコメ問題で生産/消費大国「中国」を下記に取り上げたい。

① 先々月号でも触れた通り、世界のコメ生産量5.4億ト(精米ベース)の中で中国はインドについて世界第二位の生産を誇っている。下図に見る通りその生産量はほぼ毎年1.4-1.5億トの範囲で安定しており消費量もほぼ同じ範囲内で推移している。中国は食料の「自給自足」が建国以来の国是であり、期末在庫率は小麦84%/とうもろこし56%/コメ71%と世界標準30%を大幅に上回っている(下記)。

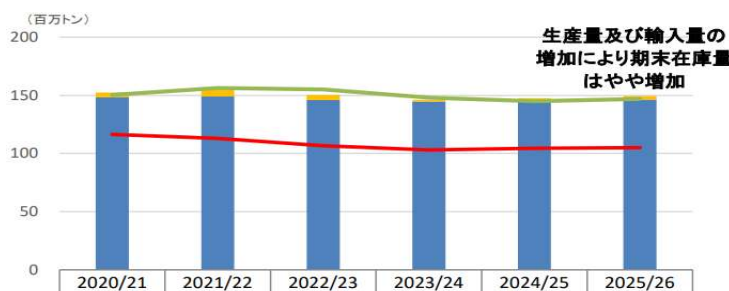
② その結果、コメ輸入量は下図の通り年数百万トレベルで生産量に比べれば数%程度であるが、長期在庫米を飼料用や工業用に放出した補充や国際市場が国内支持価格に比べ大幅に下落した場合、或いは高品質米の需要を補完すること等が主な目的になっている。24/25年度の230万トの主な輸入先はミャンマー/タイ/ベトナムの三カ国でほぼ全体の75%。輸出は主に中粒米をアフリカ向けに約2百万ト。

③ 中国は食料の「自給自足」を掲げる一方、現実には豚肉等の畜産物消費(1億ト)が急増する中で配合飼料需要2.6億トを含め全ての国内穀物需要を賄うことは不可能であり、大豆については1億トを超える膨大な輸入を行っている。その中で中国は2024年「全国食料生産5,000万ト増産計画」を掲げ雑穀含め7億ト生産を目指している。ただ農村の貧困等の「三農問題」/南北の水資源の不均衡/砂漠化・都市化の進展/機械化の遅れ等の問題があり思う様に進んでいない。政府は1.2億haの耕地面積保持し小麦/コメ/コーン3品目の自給確立を政策としているが14億人の人口を抱えその成否は世界の食料需給とコメ市場に大きなインパクトを与える可能性がある。

中国のコメ生産量と輸入量等の推移

	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25	2025/26
■ 輸入量	4.2	5.9	4.4	1.5	2.3	3.1
■ 生産量	148.3	149.0	145.9	144.6	145.3	146.3
■ 消費量	150.3	156.4	155.0	148.1	145.0	147.0
■ 期末在庫量	116.5	113.0	106.6	103.0	104.5	105.0

出典: USDA 「PS&D」 (2026.2.10)



1. 世界の穀物需給の概要

① 生産量:	2,977百万ト (前年比4.3%)	増↑、前月比0.1%	増↑)
② 消費量:	2,960百万ト (前年比3.0%)	増↑、前月比0.0%	⇒)
③ 貿易量:	537百万ト (前年比7.5%)	増↑、前月比0.0%	⇒)

2. 小麦

① 生産量:	842百万ト (前年比5.2%)	増↑、前月比0.0%	⇒)
② 消費量:	825百万ト (前年比1.8%)	増↑、前月比0.1%	増↑)
③ 輸出量:	222百万ト (前年比5.6%)	増↑、前月比0.1%	増↑)
④ 在庫量:	277百万ト (前年比6.7%)	増↑、前月比0.2%	減↓) / (在庫率34%) うち中国125百万ト、占有率45%
⑤ 価格:	\$6.11/Bu (前年\$5.34/Bu / 先月\$5.30/Bu) と先月比\$0.81 上昇。		

⑥ 概況: 世界の生産量は、前月比は横並び、前年比は従来通り8.4億トと約4千万ト増で史上最高数量見通し。消費量も順調では前年比15百万ト増加見通し。輸出量も諸費拡大とともに前年比約1千万ト増と2億トを大きく超えている。在庫量は生産が消費を上回っていることから大きく増加。価格は米国/ロシアの寒波による冬小麦作柄懸念やドル安等から久方ぶりに6ドルを超えて強含み。

3. とうもろこし

① 生産量:	1,297百万ト (前年比5.4%)	増↑、前月比0.1%	増↑)
② 消費量:	1,301百万ト (前年比4.0%)	増↑、前月比0.1%	減↓)
③ 輸出量:	207百万ト (前年比10.4%)	増↑、前月比0.1%	増↑)
④ 在庫量:	293百万ト (前年比1.0%)	減↓、前月比1.3%	増↑) / (在庫率23%) うち中国180百万ト、占有率62%
⑤ 価格:	\$4.47/Bu (前年\$4.55/Bu / 先月\$4.30/Bu) と先月比\$0.17 上昇。		

⑥ 概況: 世界の生産量は、前年比67百万トの大幅増で13億トに迫る勢いで史上最高見通し。消費量は前年比5千万ト増加し13億トの大きに乗った。輸出量も2億ト台に乗り全体的に市場は大きく拡大している。消費が順調なことから期末在庫量は若干減少。価格は2月はじめ世界的に天候条件良かった為4ドル台前半まで下げたが、期近は堅調な輸出需要を受け4ドル台前半まで値を戻した。

4. 大豆

① 生産量:	427百万ト (前年比0.0%)	⇒、前月比0.2%	減↓)
② 消費量:	424百万ト (前年比2.6%)	増↑、前月比0.1%	減↓)
③ 輸出量:	187百万ト (前年比1.6%)	増↑、前月比0.2%	減↓)
④ 在庫量:	125百万ト (前年比1.2%)	増↑、前月比0.2%	減↓) / (在庫率30%) うちBRA38/ARG23百万ト
⑤ 価格:	\$11.85/Bu (前年\$10.10/Bu / 先月\$11.15/Bu) と先月比\$0.70 上昇。		

⑥ 概況: 世界生産量は、アルゼンチン等で幾分減少した為前月/前年比とも小幅に下方修正された。世界消費量は順調に拡大しほぼ生産量レベルに追いついた。期末在庫量は125百万トと前年比微増で在庫率30%の見込み。市場価格は中国需要に対する期待とアルゼンチンの乾燥懸念等から値を上げ、2月末現在11ドル後半まで大きく上昇している。

世界の穀物・大豆等の需給

2026年3月10日
米国農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給								
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量		
全穀物	2023/24	2,823	3,616	515	2,819	797		
	2024/25	2,853	3,650	500	2,875	775		
	2025/26	2月	2,974	3,748	537	2,959	788	
	2025/26	3月	2,977	3,752	537	2,960	792	
小麦	2023/24	792	1,066	222	797	269		
	2024/25	800	1,070	210	810	260		
	2025/26	2月	842	1,102	222	824	278	
	2025/26	3月	842	1,102	222	825	277	
粗粒穀物 (とうもろ こし等) 注1	2023/24	1,507	1,845	236	1,498	347		
	2024/25	1,511	1,858	228	1,534	325		
	2025/26	2月	1,590	1,913	252	1,594	320	
	2025/26	3月	1,593	1,918	253	1,594	324	
米	2023/24	524	705	57	525	180		
	2024/25	542	722	61	531	191		
	2025/26	2月	541	733	63	542	191	
	2025/26	3月	541	733	62	541	192	
大豆	2023/24	396	498	178	383	115		
	2024/25	427	542	184	418	124		
	2025/26	2月	428	552	188	425	126	
	2025/26	3月	427	551	187	424	125	

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	2月	294.35	1,295.91	192.08	1,301.29	206.55	288.98
	3月	295.82	1,297.44	192.72	1,300.51	206.85	292.75
アメリカ	2月	39.40	432.34	0.64	334.53	83.82	54.02
	3月	39.40	432.34	0.64	334.53	83.82	54.02
アルゼンチン	2月	6.58	53.00	0.01	16.70	37.00	5.89
	3月	6.78	52.00	0.01	16.70	37.00	5.09
ブラジル	2月	10.58	131.00	1.60	96.50	43.00	3.68
	3月	11.36	132.00	1.60	96.00	43.00	5.96
EU	2月	6.21	56.95	19.50	75.00	1.80	5.86
	3月	6.21	56.95	19.50	75.00	1.80	5.86
日本	2月	1.37	0.02	15.50	15.50	0.00	1.39
	3月	1.37	0.02	15.50	15.50	0.00	1.39
中国	2月	191.93	301.24	8.00	321.00	0.02	180.15
	3月	191.93	301.24	8.00	321.00	0.02	180.15
ロシア	2月	0.91	14.50	0.05	11.40	3.00	1.06
	3月	0.91	14.50	0.05	11.40	3.00	1.06
ウクライナ	2月	0.84	29.00	0.01	6.20	22.00	1.65
	3月	0.84	30.70	0.01	6.60	22.00	2.95

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	2月	123.66	428.18	185.99	424.74	187.57	125.51
	3月	123.84	427.18	185.61	424.16	187.17	125.31
アメリカ	2月	8.84	115.99	0.54	72.99	42.86	9.52
	3月	8.84	115.99	0.68	73.13	42.86	9.52
アルゼンチン	2月	23.37	48.50	7.50	48.20	8.25	22.92
	3月	23.57	48.00	7.50	47.90	8.25	22.92
ブラジル	2月	36.81	180.00	0.50	65.40	114.00	37.91
	3月	36.81	180.00	0.50	65.40	114.00	37.91
中国	2月	44.49	20.90	112.00	132.90	0.10	44.39
	3月	44.49	20.90	112.00	132.90	0.10	44.39
EU	2月	1.60	2.79	14.00	16.52	0.30	1.57
	3月	1.60	2.79	14.00	16.52	0.30	1.57

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	2月	259.77	841.80	217.73	824.06	221.96	277.51
	3月	259.63	842.12	218.02	824.80	222.16	276.96
アメリカ	2月	23.26	54.01	3.27	30.71	24.49	25.34
	3月	23.26	54.01	3.27	30.71	24.49	25.34
アルゼンチン	2月	2.60	27.80	0.01	8.10	18.00	4.31
	3月	2.60	27.80	0.01	7.60	19.50	3.31
オーストラリア	2月	3.99	37.00	0.23	9.10	27.00	5.12
	3月	3.99	36.00	0.23	9.10	27.00	4.12
カナダ	2月	4.18	39.96	0.60	9.85	29.00	5.89
	3月	4.18	39.96	0.60	9.85	29.00	5.89
EU	2月	11.66	144.00	6.00	114.50	31.50	15.66
	3月	11.67	144.00	6.00	115.50	30.50	15.67
中国	2月	127.78	140.07	6.00	148.00	1.00	124.85
	3月	127.78	140.07	6.00	148.00	1.00	124.85
インド	2月	11.80	117.95	0.25	112.51	0.25	17.24
	3月	11.80	117.95	0.20	112.51	0.25	17.19
ロシア	2月	10.59	89.50	0.30	41.70	44.00	14.69
	3月	10.59	89.50	0.30	41.70	43.50	15.19
ウクライナ	2月	0.93	23.00	0.10	8.40	14.00	1.63
	3月	0.93	24.00	0.10	8.40	13.50	3.13

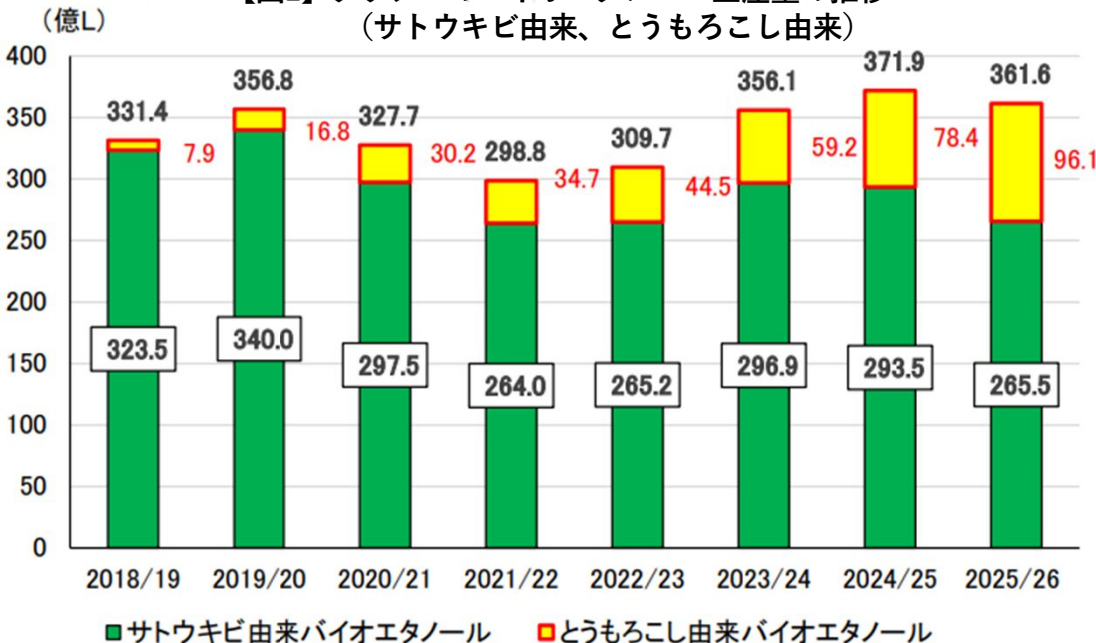
脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。

脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

世界のバイオ燃料向け穀物需給の動向(3)

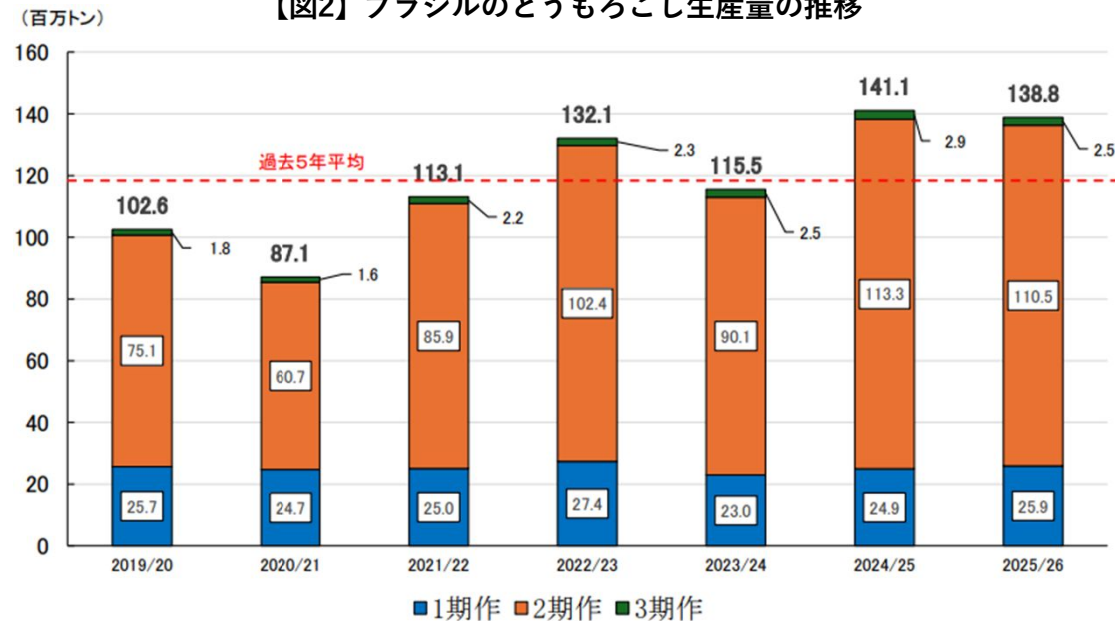
- ① 先月号では米国のバイオ燃料利用実態について述べたが、今回はもう一つのバイオ燃料先進国であるブラジルについて整理したい。ブラジルにおけるバイオ燃料向け穀物需要は、政府による原油輸入の抑制とバイオ燃料のガソリンへの混合義務量が年々増加傾向にあり、昨年8月にはバイオエタノール混合率が従来の27%⇒**30%に引き上げられた**。その結果、ガソリンスタンドで給油する場合エタノール100%の「E100」かエタノール30%混合の「E30」を選択することになるが、「E100」の燃費は「E30」の7割であることから、「E100」の値段が「E30」の7割以下なら「E100」を、逆なら「E30」の選択を行うことになる。
- ② ブラジルのバイオエタノール生産の**歴史は意外と古い**。同国は1975年脱炭素化とサトウキビの有効活用を目的に「**国家アルコール計画**」を策定、バイオエタノールの生産者買入価格/小売価格を固定しその需要を拡大してきた。その後、2003年ドライバーがガソリンとバイオエタノールの混合割合を設定できる「**フレックス車**」(現在85%)が登場し更なる需要拡大が進んだ。[図1]は2018年以降25年迄のサトウキビ/とうもろこし由来別のバイオエタノール生産量の推移であるがトータル生産量は331⇒361億Lと約1割増、種類別には**とうもろこし由来**が僅か約8⇒96億Lと12倍の大幅増となりその存在が急上昇。その要因は、とうもろこしはサトウキビに比べ保存可能期間が2-3年と長く、端境期も安定的な供給が可能であり、33年には現在の**倍増184億Lまで増加**する見通し。
- ③ [図2]はその原料となるとうもろこし生産量推移であるが、これは周知の通りこの間103⇒**139百万ト**と**35%増加**。ブラジルのとうもろこし生産は一期作(夏/大豆と同じ2月～収穫)二・三期作(冬/8月～収穫)と多様であるがその**中心は二期作**で全体の8割を占める。その中心は中西部**マトグロソ州**で二期作生産の約50%を占める。同州とその周辺州ではバイオエタノール工場の建設が急速に進んでおり現在**稼働中施設24/建設中16/更に建設が発表された施設16カ所と展開が急**である。また、増産されたとうもろこしはエタノールと配合飼料原料(約5千万ト)に利用され**輸出との競合関係**を生み出している。
- ④ ブラジルは、「**世界のバイオ燃料大国**」と言われるが同国のとうもろこし生産139百万トは輸出43/国内96うち約**23百万ト/全体の約17%**がバイオエタノール生産に利用。サトウキビ含めた生産量は図1の通り約360億L。ガソリンシェアは**30-40%**と推測。一方、米国のバイオエタノール用とうもろこし利用は**1.4億ト**で約600億L(420kg/1ト)、ガソリンシェアは**約15%**と推測。両国合わせたバイオエタノールは**約1,000億L**と世界の**約80%**を占め圧倒的である。(続く)

【図1】 ブラジルのバイオエタノール生産量の推移
(サトウキビ由来、とうもろこし由来)



資料：CONAB「CanaSerieHist-Industria」25/26年度は予測値

【図2】 ブラジルのとうもろこし生産量の推移



※生産量の合計は、1期作、2期作、3期作の合計

資料：CONAB「Graos」(2025.11.13)